

## 第Ⅱ章 鳥取県の現状

平成27年4月、一人一人の子どもが健やかに成長することができる社会の実現をめざし、幼児教育や地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていく「子ども・子育て支援新制度」が始まりました。小規模保育事業、家庭的保育事業といった新たな事業類型の地域型保育事業所や認可外（届出）保育施設を含め、県内には、令和元年5月現在、294の幼児教育・保育施設があり、年々増加傾向にあります。（資料3）

女性の社会進出、雇用形態の多様化の要因もあり、保育所等への入所率は年々増加しています。（資料4）三世帯同居の割合は全国9位、児童1万人あたりの保育所数は全国4位となっており、子育てをしながら働き続けやすい環境にあると言えますが、一部の地域では年度中途に待機児童が発生しており、保育ニーズの高まりに応じた対応が喫緊の課題となっています。また、親の就労状況等に関わりなく子どもを受け入れる体制づくりや様々な保育環境の充実が求められています。

また、核家族化、少子・高齢化をはじめとする社会の変化などにより人間関係が希薄化し、家庭教育が困難になっている状況があり、見守りや相談、仲間づくりなど地域での子育て支援へのニーズは高まっています。（資料5）

さらに、家庭や地域における豊かな体験が不足してきており、鳥取ならではの自然を生かした教育・保育をはじめ、幼稚園・認定こども園・保育所等で豊かな体験をさせていくことが必要です。人格形成の基礎を培う重要な乳幼児期の教育を充実するとともに、県内すべての乳幼児の健やかな育ちを支えることが重要な課題となっています。そして、乳幼児期から周囲の人との愛着関係や自己肯定感を育むとともに、ふるさと鳥取を誇りに思い、次代を担う人材を育むことが必要です。

また、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性に鑑み、令和元年10月より、幼児教育・保育の無償化が始まり、全ての施設において幼児教育の質を向上していくことが求められています。県教育委員会と県子育て・人財局は、連携・協力して研修を実施し、保育者の指導力向上を図っています。また、幼児教育担当指導主事（以下担当指導主事）と幼児教育支援員、幼児教育アドバイザー、保育専門員が幼稚園・認定こども園・保育所等を訪問して、幼児教育に関する実態把握、指導助言を行うことにより、市町村及び各園の取組を支援しています。平成22年度からは、市町村保育担当課と連携して、保育所の計画訪問を実施しています。

一方、保育の実施主体である市町村の一部においては、単独で保育所等への指導を行う専任職員（保育アドバイザー等）の配置が困難であるなど、市町村の幼児教育推進体制は十分とはいえない状況があります。

＜幼稚園・認定こども園・保育所等の施設・入所児童数＞

資料3

(令和元年5月1日現在)

区分	種別と対象児童	施設数	入所児童数*
幼稚園 (幼稚園型認定こども園含む)	教育施設 (満3歳から就学前児童)	20 (国公立4、私立16)	2,131人
保育所 (保育所型認定こども園含む)	児童福祉施設 (乳児から就学前児童)	156 (公立87、私立69)	13,588人
幼保連携型認定こども園	教育施設かつ児童福祉施設 (乳児から就学前児童)	30 (公立12、私立18)	4,107人
地域型保育事業所	児童福祉施設 (原則、乳児から2歳児)	37 (公立4、私立34)	489人
届出保育施設等	ベビーホテル、事業所内保育施設、企業主導型保育事業所など	51 (うち企業主導型18)	938人

\*地域型保育事業所、届出保育施設等の入所児童数は平成31年4月1日現在

＜保育所等への入所状況（平成30年10月1日現在）＞

資料4

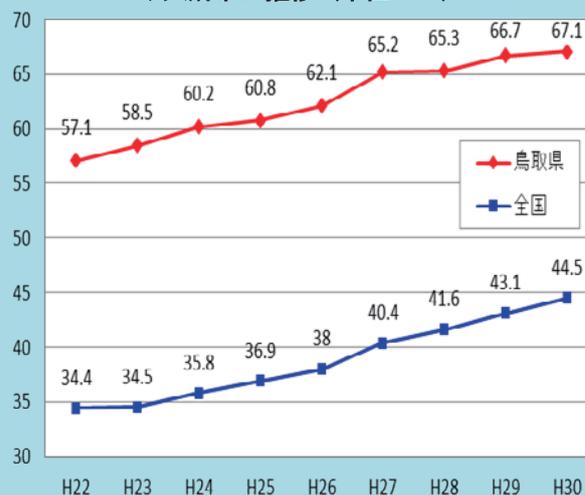
◆本県における保育所等入所人数（単位：人）

	0歳児	1,2歳児	3歳児	4歳児以上
H26	1,421	5,828	3,354	6,737
H27	1,451	5,955	3,609	7,107
H28	1,428	6,046	3,408	7,184
H29	1,359	6,075	3,548	7,096
H30	1,300	5,894	3,453	7,068

「福祉行政報告例」（厚生労働省）

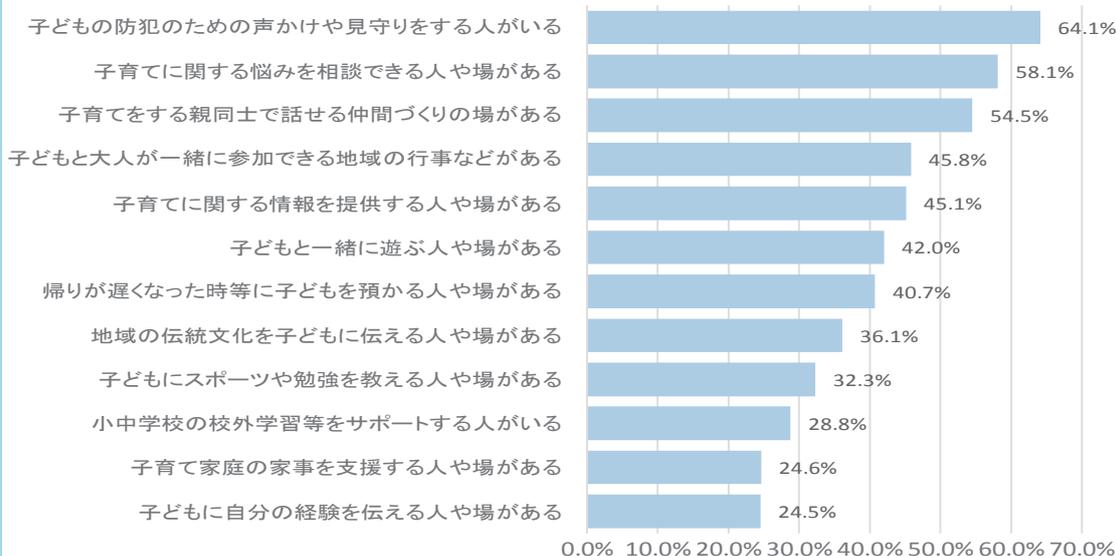
※地域型保育事業所、届出保育施設等への入所人数は除く

◆入所率の推移（単位：%）



＜地域で子育てを支えるために重要なこと＞

資料5



「平成25年度家族と地域における子育てに関する意識調査」（内閣府）（対象者：全国20歳～79歳の男女）

市町村幼児教育・保育担当者や園関係者への聞き取りや幼児教育調査（H28 年度実施）の結果から、下記のような姿がうかがえます。

### ■子どもの姿

早い時期から、集団生活を始めることで、家族以外の人や集団に慣れ、人なつこく素直な面が見られます。

家庭や地域における遊びが変化し、外遊びや直接体験が不足している傾向が見られます。また、基本的な生活習慣の定着や精神的な自立に課題が見られ、自ら遊びを選んだりつくったりすることが苦手な様子もうかがえます。携帯ゲーム機やスマートフォン、メディアとの関わりが課題となっています。（資料6）

さらに、早期から文字を覚え、数を数えるなど知的なことへの関心が高い一方で、思いや言葉をたくさんもっている、集団の中で自分の思いを言葉にして伝えたり相手の思いを受け止めたりすること、同年代の友達と関わることなどが苦手であるといった傾向も見られます。

### ■保護者の姿

保護者だけでなく、家族みんなで子育てや園行事等に参加するなど、子どもの育ちや学びについて関心が高い傾向にあります。保護者は、子どもに対し、過保護や過干渉になりがちである一方、公共のマナーを教えられない、子育てを幼稚園・認定こども園・保育所等に依存しがちであるなど、家庭における子育てが難しくなっている現状もあります。

また、情報機器の発達により、簡単に子育て等の情報が手に入る一方で、子育てへの不安や孤立感があるなど、保護者同士の関係づくりも難しくなっています。（資料5）

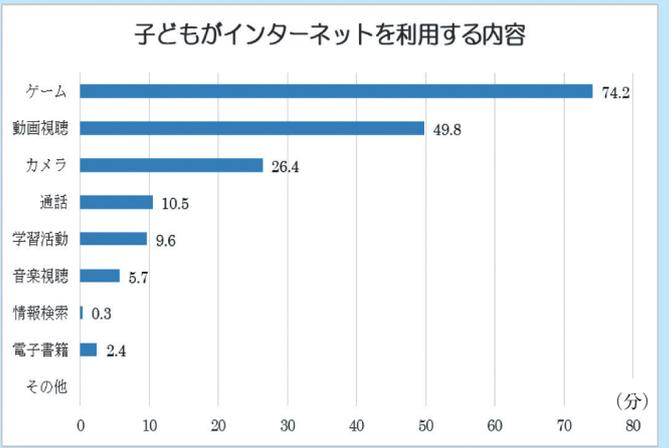
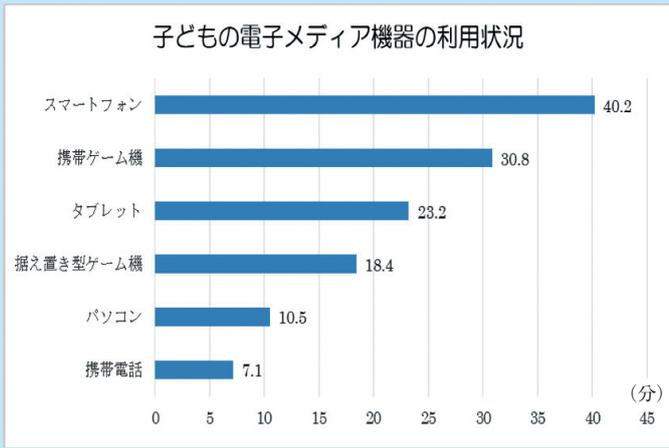
さらに、乳幼児期に親子の愛着関係をしっかりと築き、情緒の安定を図っていくことや、子育て文化の継承が課題となっています。

### ■保育者の姿

子どもや保護者に寄り添い、思いや考えを汲み取って応答的に関わる姿が多く見られます。また、県がめざす「遊びきる子ども」を育むことを意識した実践を進める保育者が増えています。（資料7）

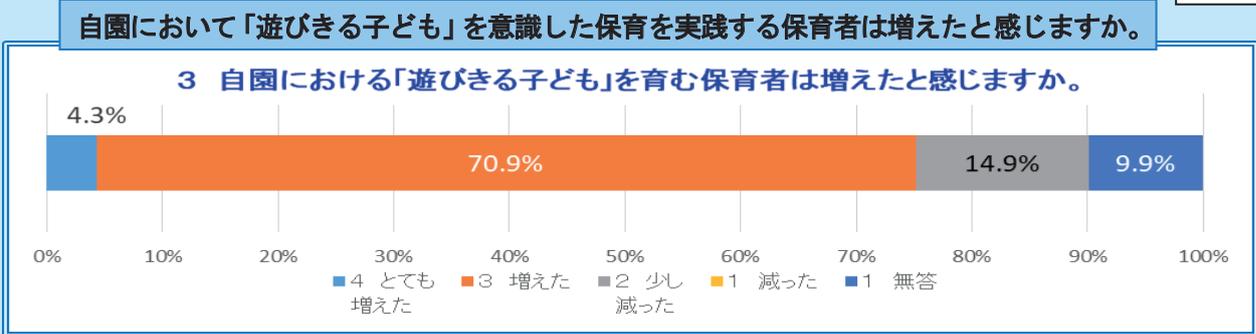
子どもの育ちと学びをつなぐ幼稚園・認定こども園・保育所等、小学校等において、子ども同士の交流や教職員等の交流が進み、互いの教育・保育を充実させるよう、年間連携計画等に基づく実践が広がっています。（第IV章3 56 ページ）

保育人材の不足、長時間保育への対応や勤務形態の複雑化などにより、研修時間の確保が難しくなっていますが（資料8）、平成24年度と比較すると園内・園外研修ともに肯定的な回答が増えており、各園において研修の重要性が理解されるとともに、研修への参加体制や研修内容等の工夫が積極的に行われていることが分かります。（第IV章2 46 ページ）



「インターネットの利用に関するアンケート」(H27 県教育委員会社会教育課) 回答: 県内未就学児(5歳児)の保護者478名  
 スマートフォンを5歳児の約4割が利用しているなど、生活や遊びの中に電子メディア機器の利用が位置付きつつあります。また、ゲーム、動画視聴を中心に、幼児期においてもインターネットの利用が進んでいます。

<遊びきる子どもを育む取組について>



「市町村等幼児教育・保育指導者研修会」及び「幼児教育・保育施設におけるミドルリーダー研修会」アンケート(H30.6)より

鳥取県教育委員会が作成した冊子等の活用状況



93%



95%



87%



65%



園 81%・小学校 73%

「県幼児教育センター実施の研修会参加者アンケート」(H30)より

<保育者の研修について>

園内研修が「あまり充実していない」「充実していない」と答えた理由

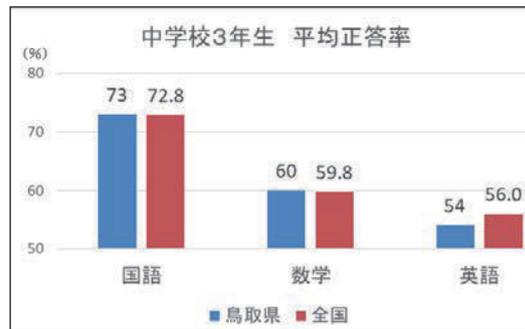
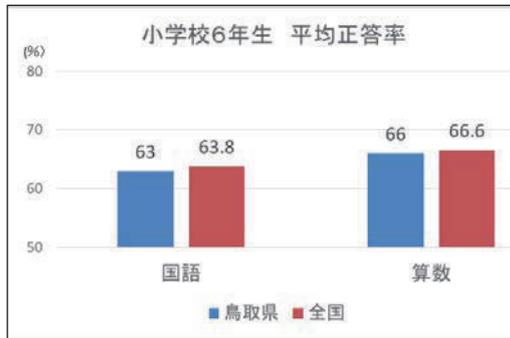
全員そろっての実施が難しい	49園
平日の子どもがいる時間の研修または時間外の研修は難しい	36園
多忙で研修する時間がない	33園
研修の中心となる教職員がいない	5園

全 211 園中  
複数回答

「幼児教育調査」(H28)

## ■本県の児童生徒の現状

### (1) 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果



### ～鳥取県の子どもたちのよいところ～

人の役に立つ人間になりたいと思いますか

**96.1%**  
(95.2%)



今住んでいる地域の行事に参加していますか

**81.3%**  
(68.0%)

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか

**81.2%**  
(79.0%)

児童質問紙で肯定的な回答の割合が全国平均よりも高かったもの(抜粋)  
<対象: 小学校6年生>  
( )は全国平均

あなたの学級では学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか

**78.5%**  
(74.0%)

### ～さらに伸ばしたいところ～

「将来の夢や目標を持っていますか」(肯定的な回答)

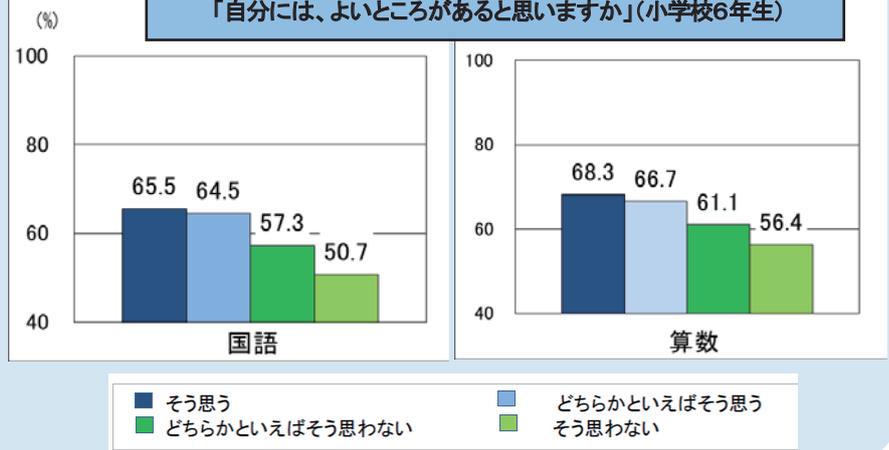


平成30年度と比較して、肯定的な回答が増えていますが、全国平均を下回る結果となっています。

肯定的な回答をした児童の方が、教科に関する調査について平均正答率が高い傾向が見られます。



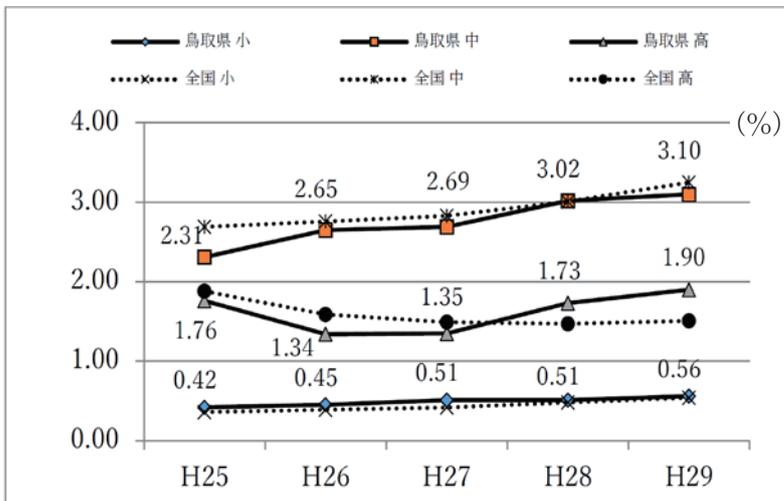
「自分には、よいところがあると思いますか」(小学校6年生)



### POINT

将来への夢や目標をもつとともに、自己肯定感を乳幼児期から育むことが、小学校以降の生活や学習の基盤となると考えられます。

(2) 不登校児童生徒の割合の推移 (平成 25 年度～29 年度)



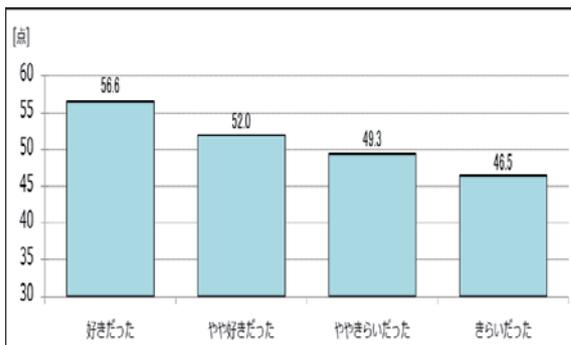
小学校の不登校児童の割合は微増し続け、全国平均を少し上回っています。中学校では、前年度より割合が上昇していますが、全国平均を下回っています。

(3) 平成 30 年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査 鳥取県の結果  
実技に関する集計結果

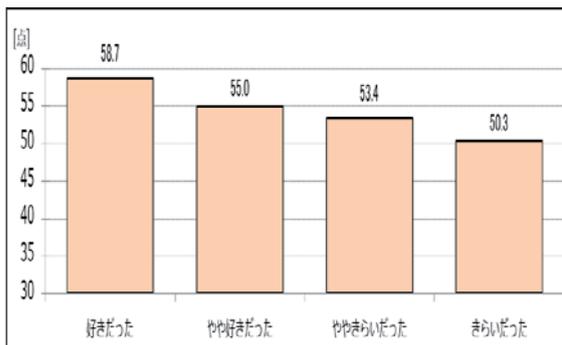
小5 男子	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール投げ (m)	体力合計点
県平均値	16.39	19.70	31.84	43.06	58.99	9.40	154.06	22.74	54.66
全国平均値	16.54	19.94	33.31	42.10	52.15	9.37	152.26	22.14	54.21

小5 女子	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール投げ (m)	体力合計点
県平均値	16.07	19.13	35.82	41.95	49.51	9.60	147.02	13.88	56.84
全国平均値	16.14	18.96	37.63	40.32	41.89	9.60	145.97	13.76	55.90

「体力合計点」と質問項目「小学校入学前に運動遊びが好き」との関係



<小学校 5 年生男子>



<小学校 5 年生女子>

「小学校入学前に運動遊びが好き」と答えた児童は、総合評価及び体力合計点が高いことが分かります。

POINT

乳幼児期においては、直接的・具体的な経験を通して、体を動かす楽しさや満足感を味わうことが重要です。